

第5学年 道徳科学習指導案

作成者：杉本 遼

1. 主題名 「相手が自分と違うと気付いたときどうするか？」（全1時間）

2. 教材名 「ブランコ乗りとピエロ」（私たちの道徳5・6年）

3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

「相互理解、寛容」

人がものことを見たり考えたりすることは多様であり、考え方は人それぞれである。ものの見方・考え方には絶対はない。「広い心」で多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う人間関係を築くことが豊かな社会をつくる原動力になる。しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりとするなど、自分本位に陥りやすい弱さをもっている。考えや意見が異なることを前提とすると、時には衝突することもあるであろう。大切なのは、相手と意見が食い違い、衝突したその後である。どのような心をもてば、相手との違いに気付いたり、相手との衝突した後、建設的な案をもったりよりよいものを生み出そうと行動しようとしたりできるかを考えていくことが重要である。

本時では、相手のがんばりや個性に気づいたり、相手の過ちを寛容に受け止めたり、自分と相手の違いを生かしてよりよいものを生み出したりすることのよさに気付かせることで、自分とは異なる意見や立場を尊重しようとする道徳性を育てていく。

(2) 本時の教材について

① 教科から見た特性

真剣に取り組むサムを見たことでそのことに気付いたピエロの「相手を認め自分を改める姿」、「個性の違いを生かし協力することでよりよい演技を目指す姿」から、相手と考え方や立場の違いに気付いたとき、どうすれば認めることができるか、どう考えればいいかを考えていく。

② 汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

教材に描かれるピエロはサーカス団のリーダーとして集団をまとめることでサーカスを盛り上げようとしている。それに対し、サムは約束の時間を破り、自分の演技を続けてしまう。この2人の行動を見て、「時間を伸ばすな」とサムに念を押すピエロに共感すればするほど、サムは自分勝手な行動をして集団を乱しているように思えてくる。学校という集団の中で生きる児童にとって、集団を乱すサムの行動を許しているのかと、素朴に思うであろう。この「サムを許してよいのだろうか」、「自分だったらどうするか」という児童の疑問を話題として、多様な立場の見方や考え方に触れていく。その中で、「なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えたのか?」というテーマを見出す。話し合うことを通して、自分の生活に直結する課題「相手が自分と違うと気付いたときどうするか?」について考えを深めていく。友達と話し合う活動や相互理解、寛容への考えの深まりから、自分と異なる人を受け入れる態度や相手の気持ちへの共感、敬意の心を育てていく。

4. 本主題で育む資質・能力とそれを育成する主な手立て

学習場面	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
・自分の立場を明確にして話し合う。 ・教材を読んで、テーマを設定する。	○批判的思考力 ○他者に対する受容 ・共感・敬意 ○問題解決力	◇自分の考えを5色コップでの意思表示をさせることで、思考の立ち位置を明らかにして話し合い、多様な考えに触れる場の設定。 ◇児童の教材の受け止めや相互の思考のずれから、話し合っていく話題やテーマを設定する場を設定する。
・学習テーマに対し、多様な考えを出し合い、価値を見出す。	○協働する力 ○他者に対する受容 ・共感・敬意	◇テーマに対して、多様な考えに触れ考えを広げたり、協働して深めたりしていく話し合いの場を設定する。 ◇考えたことを自身の日常生活に結び付けていくことができるよう、書く活動を設定する。

5. 本時のねらい

(1) 道徳科としての目標

ピエロがサムを許すことがよいことかどうかを話し合い、相手と考え方や立場の違いに気付いたときの多様な感じ方、考え方に触れ、どうすれば認めることができるかどう考えればいいかを考えていくことを

通して、自分と異なる意見や立場を尊重しようとする道徳性を養う。

(2) 汎用的なスキル

- ・教材の受け止めや相互の思考のずれから、話題やテーマを発見する。(問題解決力)
- ・自分の考えをもち、思考の立ち位置を明らかにし、考えを比べながら話合う。(批判的思考力)
- ・テーマに対して話し合い、多様な考えに触れ考えを広げ、協働して深める。(協働する力)

(3) 態度・価値

- ・友達と話し合う活動や相互理解、寛容への考えの深まりから、自分と異なる人を受け入れる態度や相手の気持ちへの共感、敬意の心を育む。(他者に対する受容・共感・敬意)

6. 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て
	<p>1 「ブランコ乗りとピエロ」を読んで、話し合う。</p> <p>○2人の関係をどう思うか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え方が違う。そんなわがまま許せない！ <p>⇔話し合っ、早く仲直りすればいいのに。</p> <p>○サムを許したことをよいことだと思うか？</p> <p>【よいことだと思わない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムのわがまを許すことはできない。サーカスがバラバラになってしまう。 ・自分が演技する時間を奪われてしまった。 <p>【よいことだと思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムが自分の力を振り絞って演技をしている。 ・サムの演技が観客を楽しませている。 <p>〈その他の考え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許す、許さないではない。自分と相手のいいところを上手に生かしていいサーカスを目指す。 	<p>◇児童の教材の受け止めや相互の思考のずれから、話し合っていく話題やテーマを設定する場を設定する。(問題解決力:解決したいという場の設定)</p> <p>◇自分の考えを5色コップでの意思表示をさせることで、思考の立ち位置を明らかにして話し合い、多様な考えに触れる場を設定する。(可視化ツール:批判的思考力、他者に対する受容・共感・敬意)</p> <p>◇自己とのつながりで考えるように、「許せない気持ちになることってある？」と投げかける。(問題解決力:解決したいという場の設定)</p>
<p>なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えたのか？</p>		
	<p>○なぜ、ピエロからサムを憎む気持ちが消えたのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サムが努力し、サーカスを盛り上げようとしていることに気づいて、お互いを認め合えるようになった。 ・サムの姿を見て、自分も目立とうという気持ちがあったことに気付いたお互いに自分がスターだという気持ちを捨てようと思った。 ・二人の立場の違いが考え方の違いを生んだことに気付いた。 ・サーカスを盛り上げたいという思いは同じことに気づき、サムと共に個性を生かし合っよりよい演技を実現しようと思うようになった。 <p>4 今日の学びと自分の生活とのつながりを考え、納得解をもつ。</p> <p>○今日大切だと思ったことは何か。今後の自分どのような場面で活かそうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たとえ相手わがままだと感じて、実は裏で強い思いを持っていたり努力していたりするかも。相手のことを知ろうとしないといけない。 	<p>◇テーマに対して、多様な考えに触れ考えを広げたり、協働して深めたりしていく話し合いの場を設定する。(他者との学び合いの設定:協働する力、他者に対する受容・共感・敬意)</p> <p>◇自分の生き方への考えを深めることができるように学習したことと自分をつなげて書く活動を設定する。(自分の考えを書く活動の設定:他者に対する受容・共感・敬意)</p>

○評価

- ・自分の立場を明確にし、友達の考えを聞いて、多面的・多角的に考えることができたか。
- ・自分とは異なる意見や立場を尊重しようとすることと自己との関連を考え、自分の生き方について考えを深めることができたか。